

令和3年度 学校評価報告書(目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①学習指導要領改訂に対応し、教科学習と課題研究の相乗効果による「知の循環」が有効に機能するための教育課程を編成する。</p> <p>②「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、更なる授業改善に取り組み、評価方法を研究する。</p>	<p>①新学習指導要領への移行を見据え、生徒の主体的な探究活動と各教科学習を往還させる教育課程を実践することにより、科学的思考力と創造性、国際性を育成する。</p> <p>②カリキュラム・マネジメントの観点から、主体的・協働的な学びの実現に向けた授業改善を推進し、併せて「深い学び」につながる評価方法を研究する。</p>	<p>①SSH 事業Ⅱ期「実践型」に相応しく、また、新学習指導要領を十分に生かすべく、探究的な学習活動を各教科で実施し、科学的思考力及び国際性を育む。学力向上WGと連携し、課題研究や探究的な学習活動と各教科学習を往還させた取組を展開する。</p> <p>②授業見学・研究授業・授業公開の拡充、教科会の活性化により各教科の指導基本(スタンダード)を構築する。新教育課程への移行に向け、指導につながる評価を研究し、年度内に完成させる。</p>	<p>①リフレクションシートや生徒による授業評価を用い、「科学への理解・関心」「論理的思考力」「国際的な視野」「情報収集・情報処理能力」「科学を応用する力」「主体性」の6観点から生徒の変容を計る。</p> <p>②新しい教科スタンダードおよび評価のシステムが完成したか。</p>	<p>①新学習指導要領の効果的な実践に向け、2学期制や70分授業への移行等のカリキュラム・マネジメントを行った。課題研究と各教科で育みたい力を明確に示した。</p> <p>②新教育課程の評価の観点に照らした授業計画及び指導と評価の計画を作成するとともに、旧教育課程の科目の指導と評価のあり方を見直し、各教科の指導基本方針を作成した。</p> <p>②授業見学週間の実施や教科代表者会議を密に開催しながら授業改善を進めた結果、『学習に関する質問項目』は全教科で数値が向上した。</p>	<p>①パフォーマンス評価や質問紙調査、リフレクションシートの分析により、生徒の変容を図ることができた。具体的な指導・評価の方策については今後も検討を進め、育みたい力について校内全体での共有を図る。</p> <p>②職員研修等を通じて、新教育課程の趣旨を理解し、本校の授業のあり方についての共通理解を促進する。</p> <p>②「論理的思考力」は全教科で高い数値を示している。継続して科学的視点を意識した「主体的・対話的で深い学び」の組織的実践を進める。</p>	<p>①2学期制・70分授業をデメリットも踏まえた効果的な実践を望む。</p> <p>①横須賀高校のSSHは地域と連携した特色および魅力のある活動である。広報も充実させながら、地域全体で盛り上げてほしい。</p> <p>①STEAM教育は理念を違えず教科横断的な視点に立って進める。</p> <p>②ICTの効果的な活用を進め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた授業改善に活かす。</p>	<p>①2学期制・70分授業の効果的な実践に取り組む。</p> <p>①SSH 事業Ⅱ期としての充実、STEAM教育への新たな取組を進める。</p> <p>②コロナ禍で授業形態に制限がかかる中、学力向上ワーキンググループと連携し、授業改善を進めた結果、生徒の授業評価で『学習に関する質問項目』は全教科で数値が向上した。</p> <p>②文系で探究活動に積極的でない生徒もおり、教員側の体制も含め、どう取り組んでいくかが課題である。</p>	<p>①新学習指導要領への移行においてワーキングチームなど校内の体制を活性化し、2学期制・70分授業の効果的な実践に取り組む。</p> <p>①STEAM教育の理念と実践方法を職員間で共有し、組織的に取り組んでいくこととなるが具体的に年間の計画を立てて着実に進める。横須賀市と連携した取組も実現させたい。</p> <p>②事象について興味や疑問を抱く姿勢、論理的思考力や実証的態度等を育み、文理を問わず全教科で未知に挑む力を育成することを目指し授業改善を継続する。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①特別活動や部活動を通じてトータルな人間教育を行い、将来リーダーシップを発揮できるようなバランスの取れた人材を育成する。</p> <p>②SC、SSWや外部機関と連携した支援体制を構築し、個々に応じた支援を行う。</p>	<p>①特別活動や部活動を通じて、何事にも主体的に取り組む積極性を育成するとともに、将来を見据えた自己マネジメント力を育成する。</p> <p>②生徒個々への支援体制の更なる充実を目指し、昨年度構築したSC、SSWや外部機関との連携体制をさらに発展させ、活用する。</p>	<p>①特別活動や部活動への積極的な参加を促し、自己マネジメント力を育成する。</p> <p>②生徒個々への支援体制の更なる充実のため、昨年度構築したSCと教育相談コーディネーターとの連絡会議を活用し、生徒情報の共有とともに、問題解決の方策を検討する。</p>	<p>①アンケート結果等から、特別活動や部活動を通じ、生徒がどのような成長を示したか。</p> <p>②生徒個々への支援によって、生徒情報の共有とともに、その解決策を検討できたか。</p>	<p>①特別活動や部活動を通じて自己の成長を感じた生徒が多く、人間教育の場としての有効性が示された。</p> <p>②生徒個々への支援を心掛け、SCと連携し、関係教員間で情報を共有することで解決策を検討することができた。</p>	<p>①部活動への加入率は90%に達するが、今後も更なる加入を呼び掛けていく。</p> <p>②SCを中心とした連絡会議は、生徒個々への支援に有効であると考えられることから、今後も継続し、ケース会議への活用も続けていく。</p>	<p>①特別活動や部活動は、知・徳・体を一体的に育むためにも必要。</p> <p>②生徒個々への支援体制の充実を目指し、外部機関との連携を充実させ、個々のケースに応じた具体的な取組を進めてほしい。</p>	<p>①コロナ禍で制限が多く、新入生の加入率の減少が危惧されたが、90%を超える生徒が加入した。</p> <p>②SCとの連携を密にし、関係教員間で情報共有することで、生徒個々への支援を行えたと考える。解決には時間がかかるケースもあるが、引き続き生徒に寄り添った支援を行っていく。</p>	<p>①コロナ禍での部活動勧誘の方策を工夫したい。引き続き人間教育の場として活発な活動を推進していきたい。</p> <p>②SCとの連絡会議の時間の確保に努める。定時制との時間配分・調整を工夫する。</p> <p>②SCとの振り返りにより外部連携による研修など職員のスキルアップを図る。</p>
3 進路指導・支援	<p>①生徒一人ひとりが高い志望を実現するためのキャリア教育プログラムを構築し、3年間を通じて一貫した進路指導を行うことで希望進路の実現に繋げる。</p>	<p>①生徒や保護者へキャリア形成について考える機会を提供するとともに、第一志望進路の実現のため、3年間を見通した体系的な計画に基づく進路指導を行う。</p>	<p>①未来ナビ、医療系ゼミを効果的に運営する。</p> <p>①模試・講習・セミナーを有効活用し、第1志望進路実現に向け、学習支援を行う。</p> <p>①進路指導の各内容を効果的に連携させるとともに、ICT活</p>	<p>①未来ナビの満足度調査。医療系ゼミを年5回以上開催。</p> <p>①各講習を有効活用することができたか。各講座の参加人数。継続受講者の人数。</p> <p>①進路指導計画の効果的な実践、模試の有効</p>	<p>①未来ナビ満足度98%。医療系ゼミ6回開催。</p> <p>①未来ナビはオンライン形式となったが、初めて2講座選択式で実施し、複数の講話を開けたことで、満足度が高かった。</p> <p>①オンライン講座や自学自習道場等新たな発想で実施。夏期講習60講座・延べ722人受講。6月土曜講座36講座・延べ593人受講。12月土曜講座35講座・延べ375人受講。</p> <p>①3年間を見通し模擬試験を計画的に実施した。事前に生徒に目的を明示</p>	<p>①生徒がより満足感を得られ、進路選択へのモチベーションが上がるよう、未来ナビの内容・形態など更に工夫したい。</p> <p>①コロナ禍であったが、夏期講習、土曜講習とも設置講座数を昨年度比で大きく増やすことができたが、参加人数は約5%増にとどまった。引き続き3年間を通じた学習支援の一貫性・継続性を強化する。</p> <p>①模擬試験の効果的な実施に向けて分析会をさらに充実させ、生徒の進路</p>	<p>①国際社会で活躍する人材が増えていると感じている。</p> <p>①同窓会の卒業生の活躍を生徒に伝える取組に在校生、先生方も参加してほしい。</p> <p>①近年、総合型選抜や学校推薦型選抜の募集が増え、</p>	<p>①未来ナビについては、進路希望が定まった2学年後期に行うことにより、効果的なキャリア形成をすることができた。</p> <p>①土曜講習については、オンライン講座に人気が出る取組に在校生、先生方も参加してほしい部分があることが分かった。</p> <p>①模擬試験については、終了後定期的に分析会を行うようになり、職員の</p>	<p>①未来ナビについては、コロナの感染状況等を踏まえて、より生徒のキャリアに対する意識を高められるよう、効果的な手法を研究する。</p> <p>①土曜講座については、内容・日程や生徒の参加しやすさを考え、従来の形に囚われず実行する。</p> <p>①模擬試験分析会については、該当学年の担任以外の参加を促し、教科指</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
				用法を含めた職員研修や模試の分析等、情報共有の機会を設け、職員の進路に関する資質を向上させる。	活用、ICT活用法や進路情報の迅速な共有ができたか。	し、終了後分析会を実施。全教員対象ICT(コンパス等)活用法研修会を行い、職員の意識及びスキルの向上を図った。  ①保護者への進路説明会をオンラインで実施。	希望の実現につなげたい。	高校での活動が評価される。3年間を見通した体系的な計画に基づく進路指導が必要。 ①キャリアパスポートの入学時回収には中学校との連携が必要である。	進路指導における知識及び技術が向上した。  ①保護者進路説明会をオンデマンド方式としたことで、保護者が参加しやすい形で実施できた。	導に生かしたい。 ①より多くの保護者に本校の進路指導方針や進路情報を提供するため、説明会への参加率が上がるよう工夫する。 ①キャリアパスポートの有効活用に取り組む。キャリア計画の振り返りや動機付けに活用する。
4	地域等との協働	①探究活動を中心に近隣の小中学校等との交流を行い、地域貢献に繋げる。  ②コミュニティスクールを活用し、保護者・地域との連携をより一層深め、開かれた学校づくりを推進する。	①探究活動や課題研究を通して得た知見を地域へ発信することで、科学の普及および、地域の活性化につなげる。  ②地域の教育力の活用を具体化させるための方策を検討し、地域に発信、貢献する教育活動の充実に努める。	①科学実験教室やトウキョウサンショウウオ里親会等の普及活動への参加や、地域の教育機関との連携事業への参加を促す。インフルエンサーとしての生徒SSH委員会を活性化し、学校全体の取組意識を向上させる。  ②地域主催の防災訓練、近隣小中学校等、地域の行事に参画する方法について検討し、実践につなげる。	①自身の考えを他者へ発信する意義を認識し、自説を俯瞰的に捉える力や、多様な価値観を享受する姿勢が身についたか、科学への興味や関心が向上したかをリフレクションシートにより評価する。  ②地域行事等への生徒等の参画について具体的な検討、実践ができたか。	①コロナ禍のため、科学実験教室等は中止となったが、オンラインの活用や対策を講じた上での活動は実施できた。「SSH NEWS」により教育活動を毎月発信した。 ①全国や地区のポスターセッション等の活動で自ら情報発信することが科学への関心・興味を深めることにつながった。  ②美術部が商店からの依頼でシャッターアートに挑戦するなど、地域貢献や地域行事等へ生徒会・部活動で参加した。	①社会的情勢を踏まえ限定的な活動が続くが、横須賀三浦地区で求められている本校の社会的な役割を踏まえ、科学の普及や地域の活性化にはさらに積極的に参加していく。  ②新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今年度はさまざまな行事等が中止になった。来年度は、機会を捉え、生徒に積極的な参画を呼び掛けていく。地域の防災訓練等への参加も進めたい。	①横須賀高校のSSHは「令和の日本型学校教育」の魁であり、SSHだけに限定しない、広く地域と連携した学校作りを期待する。  ②地域の防災訓練が2年未実施。学校の参画を期待。高校の地域連携は、地域を狭く捉えず、生徒の興味関心がある分野に目を向ける。	①コロナ禍のため対面での活動はできなかったが、近隣の小・中学校との連携更にトウキョウサンショウウオの保護活動については地区の高校との連携も果たした。 ①ポスターセッション等探究活動の発表、部活動での地域の商店との連携など活動の幅を広げた。  ②地域行事等への参加により、地域への貢献だけではなく、家庭・地域による生徒の人間性・社会性の育成にもつなげる。	①引き続き地区の学校との連携を進める。 ①科学分野の各種コンテストに参加する機会を増やす。それらを地域の児童・生徒に向けた「科学(実験)教室」の生徒主体の企画・運営につなげ、研究成果の発表や科学教育の普及の場とする。  ②防災訓練を校内だけでなく、様々な形で地域連携を進める。
5	学校管理 学校運営	①令和2年度末からの耐震工事に備えて環境整備を進め、教育環境への影響を最小限にとどめる。  ②HPをはじめとしたツールを活用し、学校からの積極的な情報発信を行う。  ③教職員の仕事を精査し、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①C棟の仮設校舎への移転準備及びC棟耐震工事について生徒の安全に万全を期すとともに学習環境への影響を最小限に抑える。  ② Google Classroom を活用し教員と生徒の双方向コミュニケーションプラットフォームを活かし、情報を効率よく共有する。HPの内容を一層充実する。 ③Teams 活用の推進、ハード面での整備を行い、教職員の仕事の効率化を図る。	①仮設校舎への移転に際して、C棟の工事後の使用も踏まえ、環境整備を進める。工事の状況についての情報共有、業者も含めた連携により安全な学習環境を確保する。  ②通常時およびコロナ禍による休業がいつ発生しても教員と生徒が相互に連絡を取れ、情報を適切に共有できるよう学年と協働して環境作りを行う。 ③Teams を活用し情報共有と業務の効率化を推進する。	①耐震工事に際して適切な環境整備を実施できたか。 ①耐震工事に関する情報共有、連携が必要な時期に適切に行われたか。  ②教員と生徒が適切な方法で必要なタイミングで連絡事項や情報が共有されたか。  ③Teams を各職員が活用し、業務を効率的に進めることができたか。	①理科棟の移転に向けて、予定どおり授業に影響のないよう進めることができた。  ②Google Classroom を活用しオンライン授業を実現。生徒への連絡も効率的になった。HP・緊急配信メールにより生徒・保護者への情報配信もタイムリーに行えた。HPは内容を刷新し、項目毎に内容を整理した。  ③Teams の活用によりドキュメントの共有や年休出張棟の動静を把握でき業務の効率性が高まった。 ③2学期制への移行に向けて業務を見直すことで、効率化を図ることができた。	①次年度の移転に向け引き続き環境整備、情報共有に努める。  ②HP に英語版の案内を掲載し、海外の学校に広くアピールしたい。学校説明の英語版の作成が求められる。  ③Teams に Google との互換性がなく、Google アプリ使用時に、Teams 上でファイルが開かないなどの課題が残る。 ③主要行事の配置等2学期制の意義を踏まえた年間計画策定を進める。	①工事の状況について、十分に情報共有し、安全第一で進めてほしい。  ②外部へのアピールを推進。同窓会の Web で発信なども有効である。  ③今後も ICT を、生徒とのコミュニケーション、教員間での情報共有、情報発信などに有効活用できるとよい。 ③ICT の有効活用は業務の効率化や教師の負担軽減にもつながる。システムの構築など計画的に。	①HR 教室・職員室・事務室を含むA棟の移転における教育活動への影響を最小限に抑える。  ②HP が見やすくなり、日々是横高の更新頻度も上がったが、学校の魅力を伝えるコンテンツ等、更なるHPの充実が必要。  ③Microsoft Teams と Google Classroom を分けることで情報セキュリティを担保した業務が可能となったが、アプリケーションなどの互換性がないことで、業務負担が一部増している。 ③2学期制への移行が、実質的な業務の見直しやスクラップ&ビルドに繋がらず、効率化と言えるか疑問がある。	①工事関係の予定、準備の調整など職員間の情報共有を徹底し、安全な学習環境を確保する。  ②生徒による積極的な情報発信が学校の魅力を生徒目線で伝えることに有効と思われることから、生徒の新たな活躍の場としての広報活動を検討したい。  ③互換性自体を改善する方策だけに限らず、運用で効率化を検討する。  ③2学期制への移行が全体の業務量削減に直結するとは考えにくい。年間の業務量を工数化し業務工数管理を導入すべきである。